

東久留米市立図書館協議会による平成 29 年度図書館事業評価について

図書館協議会では、平成 25 年度事業は「資料収集・選書」「中央図書館のサービス」「地区館のサービス」「東久留米に関する資料の収集と関連事業について」「子ども読書活動」の 5 領域を、平成 26 年度事業は「資料収集・選書」、平成 27 年度事業は「イベント事業」、平成 28 年度は「新規事業」について評価を行いました。

平成 29 年度は、第二次東久留米市子ども読書活動推進計画が策定されてから 4 年目にあたります。計画では、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできない」読書を、大人も含めた社会全体で進めていこうと提案しています。現在図書館では子ども向けの事業を継続して実施していますが、子どもの実態やニーズと図書館事業が合致しているか、また必要な事業とは何かを見直す必要があります。

そのため、平成 29 年度事業については、これまで定例事業として実施してきた子ども向け事業について、図書館がまとめた「平成 29 年度東久留米市立図書館子ども読書活動推進事業及び自己評価」（別紙）を受け、ニーズと事業内容及び読書活動や図書館利用にハンディキャップのある子どもたちへの支援という 2 つの観点から、図書館協議会の意見をまとめました。

1 ニーズと事業内容について

- 平成 29 年度までは、滝山図書館が入っている西部地域センターには、児童館が図書館と同じフロアに併設されていたが、平成 30 年度には児童館がなくなることから、子どもの流れが変わってくると思われる。事業の実施内容と子どもの実態がずれてしまわないよう検討する必要がある。
- 子どもの読書活動推進には、学校や学童保育、児童館との連携が重要である。
- 今回の事業評価は、主に小学生以下が対象となっている事業についてだが、中学生の読書離れや学校における読書活動についても取り組む必要がある。
- 小学生の生活様態に合わせたおはなし会の時間帯変更、特に夏休みまいにちおはなし会の実施は評価できる。要員の問題もあると思うが、今後もさらに柔軟な対応が望まれる。
- 「よもう！あそぼう！かがくの本」の取り組みも大変評価できる。かがくの本などのブックトークを、教科との連携により学校で行うことは、小中学生の読書活動においてたいへん有効である。一過性のイベントのみでなく、学校司書の充実や、図書館の支援などにより、各学校での日常的な取り組みにつなげることが望まれる。

- 外国にルーツのある子どもには、母国語ではない国で暮らしていく中で、いろいろな困難が伴う。多言語によるおはなし会であるストーリー・フェスタは継続して実施してほしい。
 - イベントとしての取り組みも継続していくべきであるが、資料収集など日常的な活動にどうつなげていくのか、さらなる検討が必要である。
- 2 読書活動や図書館利用にハンディキャップのある子どもたちへの支援について
- 読むことが困難というハンディキャップのみでなく、学習が困難な子も含む、より広範な意味でハンディキャップサービスを捉える必要がある。
 - 図書館がそれぞれの子どもにとって「学び」に向かうための場となるよう努めてほしい。
 - 当事者への支援と合わせて、まわりの子どもや大人へのハンディキャップサービスの周知と理解が図られる必要がある。
 - 外国語を母語とする子どもたちへの取り組みの1つとしてストーリー・フェスタがあるが、それ以外のハンディキャップのある子どもたちへの取り組みが見られない。2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、合理的配慮の提供が法的義務となった。子どもたちに情報アクセスを保障するための取り組みを強める必要がある。
 - 子ども一人ひとりの障害の状況に応じた資料や支援が必要となるが、ディスレクシアなどの子どもに有効とされるLLブック（読みやすい本）、手話付きの本、マルチメディア DAISY/EPUB などの資料や ICT 機器を活用したサービスの研究・検討を行うべきである。なお、検討においては、特別支援学級、養護学校などとの連携が欠かせない。また、東京都立図書館等に活動事例・情報提供や講師派遣なども望めるのではないか。
 - オリンピック・パラリンピックの精神を学ぶための資料の提供についても検討してはどうか。

平成29年度 東久留米市立図書館子ども読書活動推進事業及び自己評価

事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
おはなし会	<p>各図書館において、乳幼児及び小学生を対象におはなし会を実施 (内容：絵本の読み聞かせ、素話、パネルシアター等)</p> <p>[中央図書館] ・赤ちゃんタイム (対象：0～2歳児と保護者) 毎週月曜日 ・おはなし会 (対象：幼児～小学生) 毎週水曜日 2回</p> <p>★平成29年度より実施</p> <p>・夏休みまいにちおはなし会 毎日(7/26～8/31) ※定例の赤ちゃんタイム及びおはなし会実施日は除く</p> <p>・日曜おはなし会 隔週日曜日(9/17～) ※「よもう!あそぼう!かがくの本!」実施日は除く</p> <p>[滝山図書館] ・ひよこタイム (対象：乳児と保護者) 毎月第4月曜日 ・こっこタイム (対象：乳幼児と保護者) 毎月第2月曜日 ・おはなし会 (対象：幼児～小学生) 毎週土曜日 2回</p> <p>[ひばりが丘図書館] ・おはなし会 (対象：乳児・幼児・小学生) 毎週水曜日 4回 ・青空おはなし会 年1回</p> <p>[東部図書館] ・おはなし会 (対象：乳児・幼児・小学生) 毎週月曜日 3回</p>	<p>[中央図書館] ・赤ちゃんタイム 実施回数：49回 参加人数：841人(子ども433人、大人408人)</p> <p>・おはなし会 実施回数：92回 参加人数：434人(子ども282人、大人152人)</p> <p>・夏休みまいにちおはなし会 実施回数：17回 参加人数：140人(子ども100人、大人40人)</p> <p>・日曜おはなし会 実施回数：8回 参加人数：88人(子ども49人、大人39人)</p> <p>[滝山図書館] ・ひよこタイム 実施回数：11回 参加人数：199人</p> <p>・こっこタイム 実施回数：11回 参加人数：69人</p> <p>・おはなし会 実施回数：90回 参加人数：368人(子ども263人、大人105人)</p> <p>[ひばりが丘図書館] ・おはなし会 実施回数：170回 参加人数：2,151人(子ども1,171人、大人980人)</p> <p>・青空おはなし会 実施回数：1回 参加人数：79人</p> <p>[東部図書館] 実施回数：132回 参加人数：1,286人(子ども778人、大人508人)</p>	<p>図書館では、乳幼児期から子どもが本に親しみ、そのことにより喜びや楽しさを発見することができるよう、成長や発達段階に応じて読書を楽しむ機会として、おはなし会を定例実施している。しかし、全館において、乳児向けのおはなし会が常に一定の参加があるのに対し、幼児～小学生を対象としたおはなし会においては、参加者が増えない傾向が続いている。</p> <p>中央図書館では、小学生が図書館に多く来館する夏休み期間中に毎日おはなし会を実施するとともに、平日は来館が難しい子どももいると考え、9月より隔週日曜日のおはなし会を実施した。その結果、保護者ともに参加する子どもが増加し、曜日や時間帯を変更して実施することに一定の効果が見られたが、夏休み以外では小学生の参加は伸び悩んだ。</p> <p>地区館においても、定例おはなし会として一定の周知が図られているが、全体として参加者は減少傾向にある。</p> <p>そのため、小学生に対する読書活動の推進においては、図書館内での事業実施だけでなく、学校や児童館等子どもが集まる場所へ図書館が外向いて事業を実施する手法が有効であると考え、子ども読書応援団等を活用した体制にシフトしていく。</p>
よもう!あそぼう!かがくの本	<p>テーマごとに本に書かれている実験や観察をし、本の読み聞かせやブックトークを実施。(中央図書館及び東部図書館で実施)</p> <p>協力：科学の本の読み聞かせの会「ほんとほんと」</p> <p>対象：小学生</p>	<p>[中央図書館] 実施回数：6回 参加人数：192人(子ども116人、大人76人)</p> <p>[東部図書館] 実施回数：2回 参加人数：38人</p>	<p>本事業は、テーマごとに本に書かれている実験や観察を行い、その後本の読み聞かせとブックトークを行うことで、本の世界と実体験との両方から科学をより身近に感じるための事業として小学生を対象に協力団体との協働で2003年から実施している。</p> <p>毎回テーマが変わることや保護者と一緒に参加できる事業であることから、一定の参加者があり、会場内に関連本も合わせて展示することで、子どもも大人も読書や本に関心を持つ一助としている。</p> <p>今後は、継続して実施してきたことで蓄積されたデータを蔵書にフィードバックするとともに、より一層の事業の周知を図っていく。</p>
ストーリー・フェスタ	<p>ネイティブスピーカーによる多言語と日本語のおはなし会として実施。</p> <p>協力：東久留米国際友好クラブ</p>	<p>実施内容：英語・韓国語・タガログ語・日本語によるおはなし会 参加人数：60人(子ども23人、大人37人)</p>	<p>日本語を母語としない子どもたちへの取り組みとして、多言語によるおはなし会を毎年協力団体との協働で2012年から実施している。本事業は、図書館の多文化サービスの一環として実施し、言語については、毎年検討した上で変更している。なお、平成29年度は初めてタガログ語でのおはなしを取り入れて実施した。</p> <p>協力団体との調整を行う中で見えてくる子どもの実情等もあり、今後も継続して事業を実施していくが、その場限りではなく、その後の継続した図書館利用の促進や、交流がなされるよう工夫する必要がある。</p>